

(1)昭和48年1月1日(毎月1日・15日発行)

No.358

1月1日号

市報 さが

(第三種郵便物認可)

(昭和26年2月24日)

発行所 佐賀市役所

発行人 市長公室長

(定価2円)

電話代表④3151番

佐賀市の人口

12月1日現在 前月比

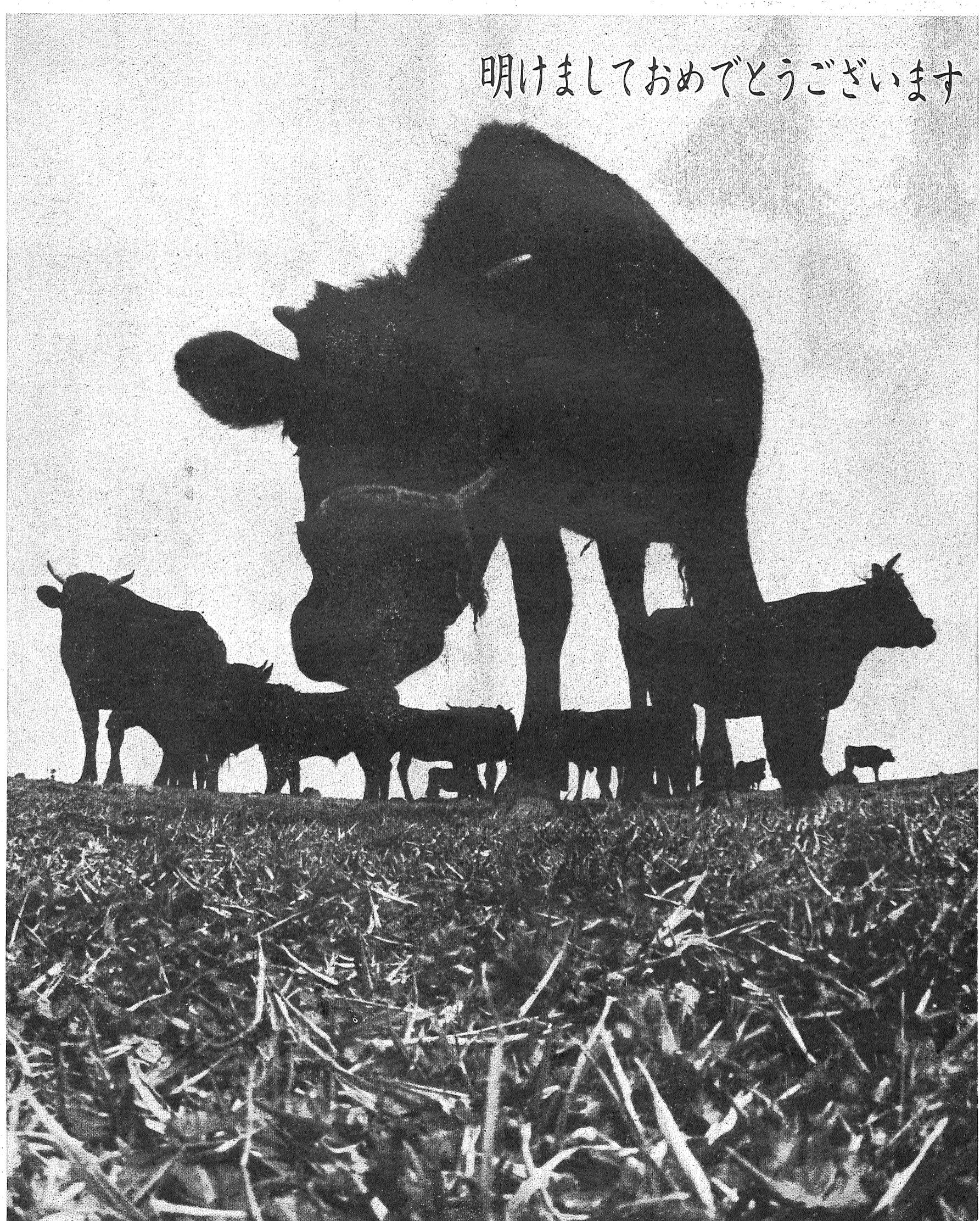
人口 149,386 +119

男 70,644 +64

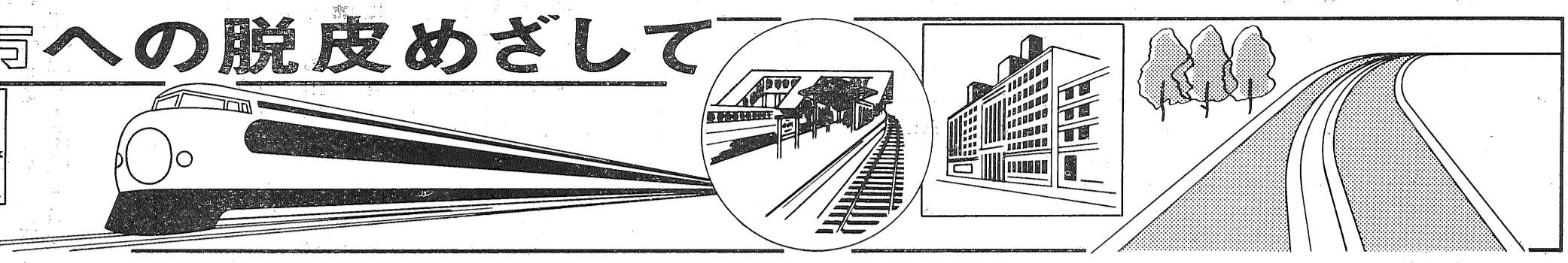
女 78,742 +55

世帯 43,011 +60

明けましておめでとうございます



写真は音成三男さん(日本写真協会々員)に提供してもらいました



わたしたちのまち佐賀は、真の県都として、いま大きく変わろうとしています。佐賀駅高架移転工事は着々と進み、九州横断自動車道、長崎新幹線の建設も決まり、昭和51年には国体開催も内定しています。

そこで、これから佐賀を市長と市議会議長に語ってもらいました。



市長 宮田虎雄



市議会議長 立石仙一郎

まず道路整備

とりもどしたい清い流れ

司会 昨年は明るい話題が多かったのですが、今年はその実現をめざしておられます。そこでも最大目標ですね。五十年に年抱負を市長さんからおうかがいします。

市長 抱負というか、非常に飛躍したとおもいます。予算も四十六年度が約五十億円ぐらいでしたが、四十七年度は七十億円に近づこうとしています。昨年度からマスター・プランの第二次五ヵ年計画にはなりました。そこで今年もこの計画にそつて事業を進めていくでは、多布施川の整備を昨年

私の考え方をおおさばに見てみたいと思います。四十七年度は、事業別にも非常に飛躍したとおもいます。予算も四十六年度が約五十億円ぐらいでしたが、四十七年度は七十億円に近づこうとしています。昨年度からマスター・プランの第二次五ヵ年計画にはなりました。そこで今年もこの計画にそつて事業を進めていくでは、多布施川の整備を昨年

結果になりました。したがつて、今年は昨年に引き続き、循環道路、バイパスにつながる駅付近の連絡道路や、上多布施・北島線など、街路網などを整備が四十八年、四十九年の歳末までに完成する予定です。多布施川の水の流れをとどめることで、河床を上げることにより、水に、多布施川を公園化したい。駅の高架移転、北部バイパス

からはじめましたが、今年は大幅に事業を進めていくたいと思っています。多布施川の水の流れをとどめることで、河床を上げることにより、水に、多布施川を公園化したい。駅の高架移転、北部バイパス

が完成すれば、市の環境は非常によくなりますけど、早くから着工し、いよいよ本格的な工事がはじまります。これ

までは一部使用できるよう

つもりです。

司会 そのなかでも、都市基盤の整備が四十八年、四十九年の歳末までに完成する予定です。多布施川の水の流れをとどめることで、河床を上げることにより、水に、多布施川を公園化したい。駅の高架移転、北部バイパス

が完成すれば、市の環境は非常によくなりますけど、早くから着工し、いよいよ本格的な工事がはじまります。これ

までは一部使用できるよう

つもりです。そのなかでも、都市基盤の整備が四十八年、四十九年の歳末までに完成する予定です。多布施川の水の流れをとどめることで、河床を上げることにより、水に、多布施川を公園化したい。駅の高架移転、北部バイパス

が完成すれば、市の環境は非常によくなりますけど、早くから着工し、いよいよ本格的な工事がはじまります。これ

までは一部使用できるよう

つもりです。そのなかでも、都市基盤の整備が四十八年、四十九年の歳末までに完成する予定です。多布施川の水の流れをとどめることで、河床を上げることにより、水に、多布施川を公園化したい。駅の高架移転、北部バイパス

が完成すれば、市の環境は非常によくなりますけど、早くから着工し、いよいよ本格的な工事がはじまります。これ

大幅な公共投資を

惜しまぬ議会の協力

司会 よくわかりました。四十七年度は話題が多く、議会としても積極的に後援されたと思いますが、四十八年にはどういう形で議会の協力体制でいくか、議長さんの抱負をお聞きしたいとおもいます。

議長 四十七年は、都

議長

上

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め

に

の

た

め



衰退する伝統の美

粘土ガワラづくり



しゃちはこの仕上げに余念がない
古賀 勇三さん

陽光に映え、キラキラと輝く粘土ガワラの美しさ……。そこには先祖から受け継がれてきた日本の伝統的な美があるのではないでしょうか。

西与賀町今津は、むかしからカワラ作りの盛ん

なところです。数年前までは十軒以上もカワラ屋がありましたが、建築様式の変化とともに粘土ガワラは衰退し、現在は一軒だけ。

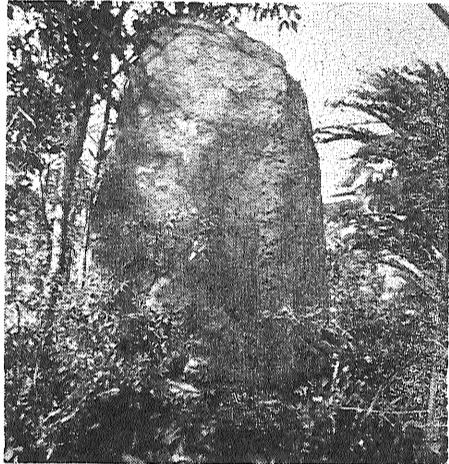
そんななかで、今日も土をこね、竹べら一本でみごとなしやちほこや竜などの鬼ガワラを作り続けているこの道約六十年の古賀勇三さん（七十五歳）は、「後継者がいないので、今後はどうなるかわからなりません。できるものから型ワクを作りました」と語っておられました。

最近、その美しさが見直されてはいるものの、粘土ガワラ作りは、いまやピリオドをうとうとしているのではないかとしう。

龍右衛門は、時を経て詩文抄は、文章簡潔、内容一貫性に富んで強力。他の全国新後宮につくことをすすめ志士の同類の文章詩歌にくらべて少しも劣ることのない名文とされています。

維新の功労者を輩出

伊勢町の純粹社塾



「純粹社塾」は、幕末から明治初年にわたり、石井龍右衛門が開いていた私塾で、その多くが、この私塾に学んでいます。

明治維新に活躍した佐賀藩士

平、大木喬任、中野晴虎など

右衛門が開いていた私塾で、

大隈重信、副島種臣、江藤新

七卿落ちは松堂と号

し、当時の碩儒。勤王の志あ

つ、三条実美などの七卿が

また、太宰府に西下したいわゆる

「石井龍よんさん」

のこれまで、ひそかに気脈を

ことです。

昭和十八年、肥前史談会の

記念碑

が建てられました。

「純粹社塾」は、幕末から

明治初年にわたり、石井龍

右衛門が開いていた私塾で、

その多くが、この私塾に学んで

います。

「純粹社塾」は、幕末から

明治初年にわたり、石井龍

右衛門が開いていた私塾で、